

卒業生から見た大学在学中の習得能力と現在の仕事上の習得必要能力の関係

- 在学中の諸活動と習得能力との関連性の分析から -

立命館大学大学院
応用人間科学研究科
対人援助学領域
発達・福祉臨床クラスター
芝田 佳奈

本研究の目的は、大学の卒業生調査を通じて、第 1 には、卒業生が、卒業する際どのような能力を習得したと考えているのか、また、現在の仕事においてどのような能力を大学で習得しておくことが望ましいと考えているのかを明らかにすること、第 2 には、卒業生にとって、在学中学びの多かった活動は何かを検討すること、第 3 には、習得することが強く望まれる能力は、どのような活動から身につけることが可能かを考察すること、以上 3 点を検討することである。調査対象は、大学（短大を含む）を卒業し、少なくとも 1 回以上の社会人経験（職業従事歴）を有する、1970 年卒業から 2010 年卒業の 242 名（男性 123 名、女性 119 名）であった。

結果は、卒業時習得度も現在習得必要度も上位 10 位以内に位置する能力は、「指導性 責任感」「人間性の理解」「順応性 交渉力」「価値観・道徳性」「心理的安定」「経済的生産性 職場適応」の 6 項目であった。現在習得必要度が上昇傾向を示した能力は、「言語操作能力 日本語口述」「未来志向性 計画性」「順応性 危機処理」の 3 項目であった。また、

現在習得必要能力について因子分析を行った結果、「実用的能力」「自己啓発能力」「文化や社会に対する知識」「外国語能力」「知的操作能力」の 5 因子が抽出され、現在習得必要能力は 5 因子から構成されていることが示唆された。これらの因子は現在の職域と関連が見られ、営業・販売系の職域が他職域より「文化や社会に関する知識」の能力を、対人援助系の職域が他職域より「文化や社会に関する知識」「知的操作能力」の能力を必要としていることが示唆された。卒業生にとって、在学中学びの多かった活動は何かを検討した結果、「部活動・サークル・友人関係」「アルバイト・ボランティア」「専門領域・ゼミ・卒業研究」の 3 つの活動群が、大学生活の中で学ぶことの多い「活動の軸」であることが示唆された。習得することが強く望まれる能力は、「活動の軸」を中心に、学生が従来取り組む活動から身につけることが可能である能力と、どの活動から身につくかを特定できない能力と両者存在していることが示唆された。

大学在学中に身につけておくべき能力や、卒業後に仕事をして身につけることのできる能力、大学でも仕事でも両方で身につけることのできる可能性のある能力の 3 通りがあると考えられる。その仕事をする中で必要性を感じていくような能力を、学生が在学中に必要だと実感することができれば、学生はより積極的な学びを実現できるのではないかと考える。そのために大学は、必要性を感じられる学びの機会を準備することによって、学生の自覚を高める大学教育へと教育改革の努力を積み重ねていくことが重要であると考えられる。